

今月のスマイルさん
Everyone to be happy with a smile.



博仁くん(6歳)

五個荘中央公園の取材でお会いしました

健康ダンスに意欲



第2期「地域おこし協力隊」の委嘱式が市役所で行われました。

今回委嘱されたのは、大型アミューズメントパークでダンサーとして活躍されるなどの経歴を持つ藤井悠矢さん(32歳)。大阪府箕面市から愛知川上流の山間に位置する奥永

新隊員に藤井さん

源寺地域の紅葉尾町に移り住み、過疎高齢化が進む同地域の活性化に取り組みます。

委嘱式では小椋正清市長が藤井さんに委嘱状を手渡し、藤井さんは「健康ダンスに取り組みたい。地域のコミュニケーションの促進にもつながれば」と意気込みを話されました。



本市での地域おこし協力隊の受け入れは、昨年4月から同地域で活動されている前川真司隊長と山形蓮隊員に続き3人目となります。

正しい知識で万が一に備える



東近江市体験交流型旅行協議会主催の「アレルギーの基礎知識講演会」がシヨッピングプラザアピアで開催されました。

同協議会は農林漁業体験や民泊の受け入れを促進するため平成23年に市内の営農、漁業組合やNPO法人などで設立されました。今回は、子どもたちが安全に滞在できるように、アレルギーの知識や発症時の対処法に関する講演が行われ、受け入れ家庭など約50人が耳を傾けました。



講師のNPO法人アレルギー支援ネットワーク常務理事の中西里映子さんは、民泊受け入れ時の注意点として、保護者への事前調査と子どもへの聞き取りでアレルギーに関する正確な情報を得ることなどを挙げられ、参加者からは「知識を持つことで、安心して受け入れられる」との声が聞かれました。

桜名所めぐり



五個荘中央公園



太郎坊宮参道



松尾神社参道



佐久良川の堤

春の祭 最上踊り・フキハヤシ



市指定無形民俗文化財の最上踊りが4日、尻無町の八坂・八幡神社と大森町の大森神社で奉納されました。

これは、両町に伝承されている300年以上の歴史をもつ民俗芸能です。名前の由来は、江戸時代に東北地方で57万石を誇った大名の最上氏が家督争いの末この地に5000石で転封され、その陣屋で領民が踊ったことに由来します。当日は境内のかがり火の明かりに照らされながら、囃子や太鼓の音に合わせ、日の丸扇子を手に輪になって踊りました。



▲最上踊り(尻無町)

また5日には、羽田神社(上羽田町)でフキハヤシが奉納されました。フキハヤシは、祝詞(シユウシ)とも呼ばれ、4人の子どもたちが紋付羽織袴の姿で、笛・鼓・締太鼓で囃子を奉納するものです。神を喜ばせるための芸能であり、豊作を祈願する要素が多く盛り込まれ、市指定無形民俗文化財に指定されています。囃子を奉納した小澤郁弥くん(八日市西小2年)は、「昨年の鼓は太鼓に合わせてきたけど、今年の太鼓は一生懸命に毎晩練習しました。次に担当する笛は、音を出すのが難しそう」とほっとした表情で話されました。



▶フキハヤシ(上羽田町)



▶最上踊り(大森町)

風の女神4人の委嘱式



5月31日(日)に開催される東近江大凧まつりに華を添える「風の女神」4人の委嘱式が勤労者総合福祉センターウエルネス八日市で開催されました。風の女神はまつり当日、100畳敷大凧が空高く舞い上がるために、よい風が吹くよう祈念するほか、まつり当日を含む大凧まつり関連事業に参加し、イベントを盛り上げます。委嘱式では東近江大凧まつり実行委員長の小椋正清市長から、公募で選ばれた東浦優

生さん(20歳)と藤原悦子さん(35歳)に加え、観光大使の「東近江レインボー大使」である伊藤理絵さん(30歳)と小辰阿希子さん(28歳)に凧でできた委嘱状が手渡されました。

委嘱された藤原さんは、「たくさんお願い札が貼られた大凧なので、夢を運べるような風をおこしたい」と抱負を述べました。

また、風の女神の衣装は、地域ブランド「近江の麻」を用いて成安造形大学生がデザインしたものを、昨年に引き続き着用します。湖東織維工業協同組合の北川



▶右から藤原さん、東浦さん、小椋市長、小辰さん、伊藤さん

陽子さんは、「地域の行事に地域の素材が使用されるのがとてもうれしい」と話されました。